

大阪ガス株式会社（9532）

2025年3月期 第1四半期決算

投資家・アナリスト向け説明会 プレゼンテーションスクリプト（2024年7月29日開催）

スピーカー：大阪ガス企画部 IR部長 松井 宏樹

大阪ガスのIR部長の松井です。

本日は、お忙しいところ、当社の2025年3月期第1四半期決算の説明会にご参加いただきありがとうございます。

また、平素は当社事業にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

それではただ今より、2025年3月期第1四半期決算について、

当社ホームページで開示しておりますプレゼンテーション資料に沿って、説明させていただきます。

3ページをご覧ください。

■ P3 25.3期 第1四半期決算のポイント

- ・ 3ページは、25年3月期第1四半期決算のポイントです。
- ・ 売上高は、国内エネルギー事業において、前期よりもガス販売単価が低めに推移したことなどにより、前期に比べて416億円減収の4,709億円となりました。
- ・ 経常利益は、タイムラグ差益の縮小や、LNG販売量が減少したことなどにより、前期に比べて389億円減益の436億円となりました。
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に比べて297億円減益の307億円となりました。

■ P4 25.3期 第1四半期決算の対前年比較(経常利益)

- ・ 4ページでは、経常利益の前期との差異理由をセグメント別に分解して、ご説明します。
- ・ 【国内エネルギー事業】は、電力事業での販売量・単価差による増益などがあったものの、タイムラグ差益の縮小やLNG販売量の減少などで、451億円の減益となりました。
- ・ 【海外エネルギー事業】は、米国電力事業の増益などがあり、36億円の増益となりました。
- ・ 【ライフ&ビジネス ソリューション事業】は、概ね前期並みとなっています。
- ・ 「その他」については、セグメント調整額及び営業外損益で21億円の増益となりました。

■ P5 25.3期 見通しのポイント

- ・ 5ページは通期見通しのポイントです。
- ・ 第1四半期の業績は対前期で減収減益となりましたが、概ね想定通りに推移しているため、通期業績予想は変更しておりません。
- ・ 通期の売上高は、国内エネルギー事業でのガス・LNG販売価格の低下等により、前期に比べて970億円減収の1兆9,860億円となる見通しです。
- ・ 経常利益の前年差の概要は右下の図に示しています通り、営業外損益が前年に大きく膨らんだことの反動が大きくなっています。
- ・ 前年の営業外損益の中身としては、原料調達に伴う為替差益などで、その反動を見込んでいます。また、タイムラグ差益の縮小などもあり、経常利益は、前期に比べて735億円減益の1,530億円となる見通しです。
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益は206億円減益の1,120億円となる見通しです。

■ P6 25.3期 見通しの対前年比較(経常利益)

- ・ 6ページでは、25年3月期見通しと前年実績との経常利益の差異理由をセグメント別に分解してご説明します。
- ・ セグメント別の通期見通しも、5月公表の業績予想から変更はありません。

- ・ 【国内エネルギー事業】は、タイムラグ差益の縮小などで、397 億円の減益を見込んでいます。
- ・ 【海外エネルギー事業】は、米国火力発電所の売却益の反動や油価下落に伴う上流事業の減益などで、71 億円の減益を見込んでいます。
- ・ 【ライフ&ビジネス ソリューション事業】は、概ね前期並みを見込んでいます。
- ・ また、「その他」については、先ほど申しました営業外での減益が大きく、セグメント調整額と合わせて 256 億円の減益を見込んでいます。

■ P7 成長投資の実績と見通し

- ・ 7 ページは成長投資と財務健全性を示しています。
- ・ 25 年 3 月期第 1 四半期は、823 億円の成長投資を行いました。
- ・ 【国内エネルギー事業】では発電所など、
【海外エネルギー事業】では米国上流事業の開発など、
【ライフ&ビジネス ソリューション事業】では都市開発事業などに対して、主に投資しました。
- ・ 第 1 四半期 期末時点の財務健全性指標は、中期経営計画 2026 で示している水準「自己資本比率 45%以上、D/E 比率 0.8 以下」を確保しています。

以降は説明を割愛いたしますが、

8 ページからは、第 1 四半期実績の前年同期との比較、

14 ページからは、通期見通しと前年実績との比較

を記載しておりますので、ご確認ください。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

注意事項：

本書に記載される情報は、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。